

けずれたことはニクイ
 もののすずれ 人の名 物の名 次々の中
 れる 一生懸命なまいたえうとして 出て
 来るともあつた つかいにはその子もあつた
 あの人 どうしていゝか 当時世話にたつ
 たのに と記憶の糸をたぐつても 出て来ると
 いふは困る
 私にギヤを掛いつづけてく小此人のあま
 は出て来ない時は 一度もおれを言つて
 いふい どうしようと思つた
 しかしやうとその名が出て来ると
 もうわすれなう 二れかるもすうとわすれる
 ニとほなうと思つていゝ
 今朝大変なことをすうた
 朝食後の菓の服甲
 食後のとしげうくおしやべりをした
 つたよの力にフいでた
 つたえの側と うけの立場の困難など
 大初日はおれを思つていゝ
 ときもつと大初原ニとほ

葉をのむことだ

しかも「^レ」だかえつても葉のことか思ひ

出さずあつた

昨夜かいた「エ」セのつゞきを

ひたすさかきつづけた

何回かよみかえしこゝせよしと尋つた時

アト目をやると葉がまぢんとある

矢敗 いそいで取ら

これじや念はぶすよ

念半めか 念半だ

キキと取らつてもうが一組めどふすれといふ

わかれのうは どこが原因だ

紙にかいてもわすれぬ 目の界にあるのだ

うすれぬ 手のうちふりがな

とどかく明日は朝合宿をちんと取る

と心あふしかるん

2021
8/5